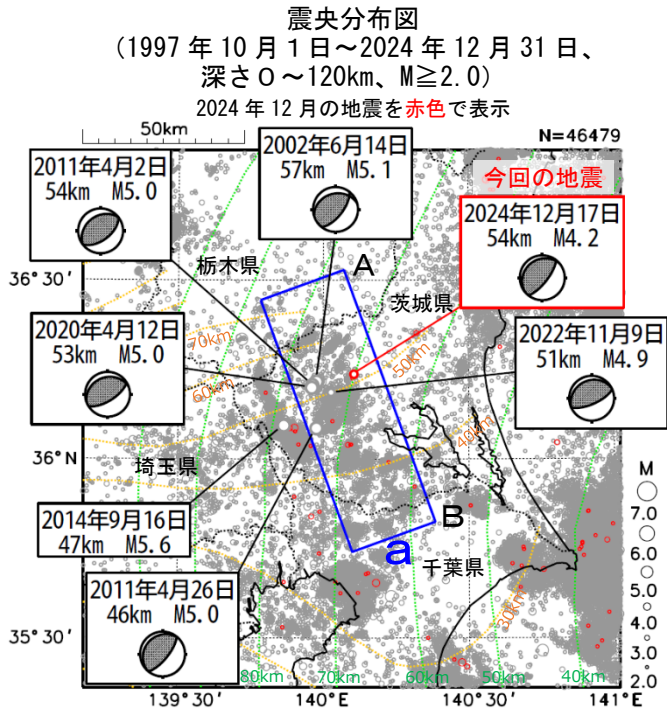
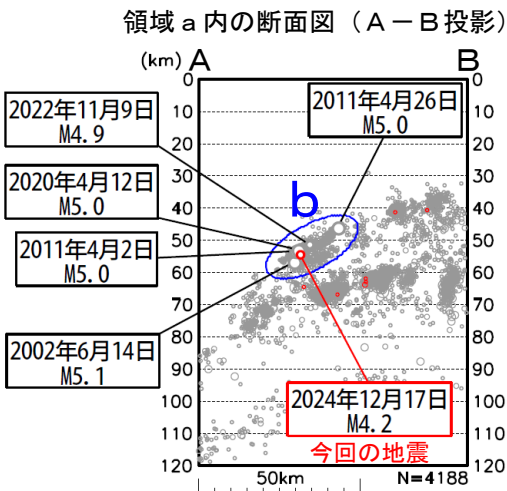


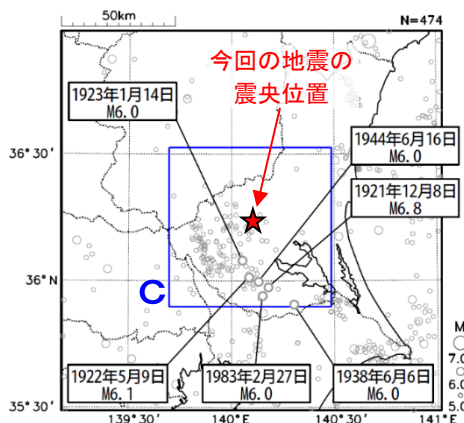
12月17日 茨城県南部の地震



震央分布図中の緑色及びオレンジ色の破線は、それぞれ、弘瀬・他（2008）による太平洋プレート上面及びフィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。



震央分布図
(1919年1月1日～2024年12月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)
2024年12月の地震を赤色で表示

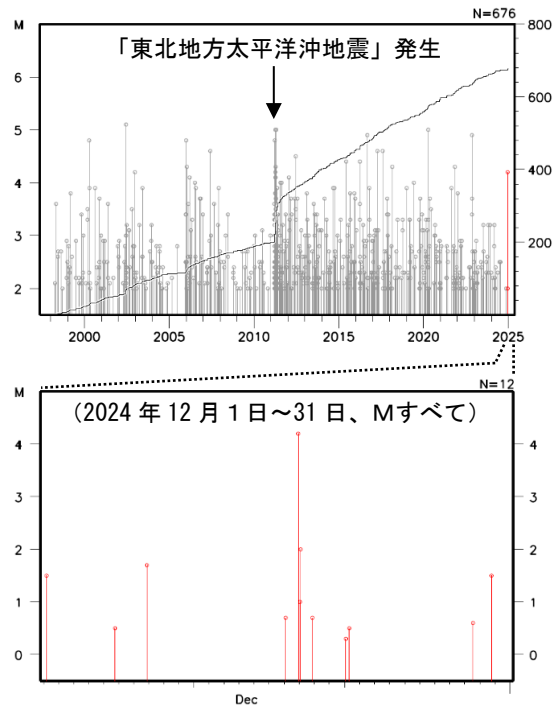


2024年12月17日22時11分に茨城県南部の深さ54kmでM4.2の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）は、地震活動が活発な領域であり、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）の発生以降、地震活動がより活発になっている。この領域では、M5.0程度の地震が時々発生しており、2022年11月9日にはM4.9の地震（最大震度5強）が発生し、軽傷1人の被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0以上の地震が時々発生している。1921年12月8日にはM6.8の地震が発生し、土蔵破損や道路の亀裂などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域b内のM－T図及び回数積算図



領域c内のM－T図

